

会報

第133号

令和8年7月1日発行
新潟県特別支援教育研究会
事務局：新潟市中央区白山浦
1-207-3 新潟市立鏡淵小学校
Tel 025 (265) 4111
Fax 025 (265) 4112



共に学び
共に創る 新潟大会
新潟県特別支援教育研究会
会長 後藤 和広

令和8年度が始まり、三か月が過ぎようとしています。各校におかれましては、子どもたち一人一人の教育的ニーズに応じた指導体制の整備や、保護者・関係機関との連携などに取り組み、忙しくも充実した日々をお過ごしのこと存じます。皆様が積み重ねておられる実践は、子どもたちの成長を支えるだけでなく、保護者の方々の理解と信頼にもつながっています。ご尽力に対し、改めて深く敬意を表します。

私たち県特別支援教育研究会の強みは、地域や校種を越えてつながり、学び合えることにあります。実践や課題を共有し、「子どもたちのためにできることは何か」を共に考えることは、私たち自身の専門性を高めるとともに、本県の特別支援教育のさらなる充実・発展を支える大きな力になるものと捉えています。

さて、今年度は10月に「全特連全国大会新潟大会」が開催されます。共生社会の実現や、子どもたちのウェルビーイングの向上が求められる今、大会主題「一人一人が輝きながら 共に支え合い 未来を創る子どもたち ～共生社会の実現に向けて、私たちはどうつながり合い、子どもたちの成長をどう支えるか～」のもと、多くの実践から学び、特別支援教育の未来を見据える意義深い大会になるものと確信しています。

一日目の全体会では、研究報告、基調報告、行政説明などに続き、発達支援コンサルタントとして全国で研修の講師を務めておられる小嶋 悠紀様をお迎えし、「障害のある子どもたちの世界～一人一人のニーズに合わせた特別支援が自立を開く～」のテーマでご講演いただきます。

二日目は、午前・午後の二部構成で、今日的な課題を踏まえた15の分科会を開催します。二部構成での分科会は、新潟大会の大きな特色であり、参加者がそれぞれの課題意識に応じたテーマについて学びを深めることができる取組として、中央組織や他県の研究会からも大きな期待が寄せられています。多くの役員、関係者の皆様のお力添えにより、大会の準備は順調に進んでいます。提案者や司会者、記録者、分科会責任者、助言者など大会運営を支えてくださる皆様にこの場をお借りし、心より感謝申し上げます。

これまでの全国大会では、開催地以外から多くの特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室の教職員が参加し、開催地の参加者と活発な研究協議が行われてきました。新潟大会においても、会員校の先生方からぜひ多数ご参加いただき、全国からの参加者と学び合う中で、日々の実践を振り返るとともに、新たな知見や視点を獲得の機会としていただければ幸いです。また、全国の参加者との交流を深めるレセプションにも、多くの皆様にご参加いただければ大変ありがたく存じます。

20年ぶりに開催する新潟大会は、現在の特別支援教育の動向や今後の方向性について理解を深め、全国各地の実践に学び、県内外の教育関係者との交流を深める貴重な機会です。役員・実行委員一同、実り多い大会になるよう力を合わせ、準備を進めてまいります。10月15日、16日の両日、会場で皆様をお迎えできますことを心より楽しみにしております。

～令和8年度の主な事業～

○理事会・評議員会

第1回理事会・評議員会
(Zoomによるオンライン開催を実施)

第2回理事会・評議員会
(1月にZoomによるオンライン開催を予定)

○研究大会

・全日本特別支援教育研究連盟全国大会新潟大会
(全国大会プレ大会)

10月15・16日 りゅーとぴあ ・ 朱鷺メッセ

*今年度は各地区大会を実施せず。

○研究部会

知的障害部 自閉症・情緒障害部

肢体不自由・病弱・身体虚弱部

言語・難聴部 視覚障害部

特別支援学校部

○全特連関係

・全国大会新潟大会

・関東甲信越地区大会新潟大会

○会報

・133号(7月)、134号(2月)

一人一人を伸ばす 教育の実現に向けて



県教育庁義務教育課
特別支援教育推進室
室長 足田 敦士

1 はじめに

会員の皆様には、日頃より本県の特別支援教育の推進・発展にご尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

近年、特別支援教育を取り巻く環境の急激な変化に伴い、国においては、次期学習指導要領の改訂を見据え、障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の強化が進められています。特に、通常の学級に在籍する児童生徒への合理的配慮の提供体制の整備、デジタル学習基盤を活用した個別最適な学びの推進、専門性をもつ教員の育成などに重点的を置き、学校全体で支援を組み立てる「チームとしての特別支援教育」が求められています。

また、医療・福祉・労働との連携を強化し、切れ目のない支援を実現する地域体制の構築も重要な課題として位置づけられています。

2 新潟県の特別支援教育の充実

こうした国の動向を受け、新潟県においても特別支援教育の充実に向けた取組が着実に進められています。県内では、特別支援学校を中心としたセンター的機能を効果的に発揮することが一層重視され、地域の学校への巡回相談、専門的助言、教材開発などが積極的に行われており、特に、発達障害のある児童生徒への支援ニーズの高まりを受け、各地域でのコーディネーター配置や研修体制の強化が図られ、学校現場における支援の質の向上が進んでいるといえます。

また、デジタル学習基盤を活用した学習の推進により、視覚的支援ツールやコミュニケーション支援アプリの活用が広がり、児童生徒の学びの保障に寄与している状況が見られます。さらに、新潟県では、特別支援学校と地域の小中学校・高校との連携が深化しつつあります。交流及び共同学習の機会が拡大し、互いの教育実践を学び合う文

化が育まれています。特別支援学校高等部においては、企業や福祉事業所等との連携を強め、地域社会での自立と社会参加を見据えたキャリア教育が充実してきています。こうした取り組みは、県全体で「一人一人を伸ばす」教育の実現をめざす姿勢の表れであり、今後も継続的な発展が期待されます。

3 新潟大会への期待

このような中、令和8年10月には「第65回全日本特別支援教育研究連盟全国大会新潟大会」が開催されます。本大会は、全国の特別支援教育関係者が一堂に会し、最新の研究成果や実践を共有する貴重な機会であるといえます。新潟大会では、県内の豊かな実践を全国に発信するとともに、国の動向を踏まえたこれからの特別支援教育の方向性を議論する場となることが期待されます。特に、新潟県がこれまで積み重ねてきたセンター的機能の充実、地域連携の深化、デジタル学習基盤を活用した学びの支援などは、全国的にも注目されるテーマであり、大会を契機にさらなる発展が見込まれることでしょう。

また、新潟大会は、県内の教職員にとっても大きな学びの機会となります。全国の先進的な実践に触れ、互いに学び合うことで視野が広がり、日々の教育活動に新たな視点を取り入れる契機となることでしょう。さらに、県内の学校が自らの実践を発信することで、教職員の専門性向上や学校間連携の強化にもつながることが期待されます。大会の成功は、新潟県の特別支援教育の未来を切り拓く重要な一歩になると確信しております。

4 おわりに

国の政策動向が示すように、特別支援教育は今後ますます「学校全体で支える教育」「地域とともに進める教育」へと進化していくと考えます。新潟県においても、これまでの取組を土台に、児童生徒一人一人の可能性を最大限に引き出す教育の実現が求められており、令和8年の全国大会は、その歩みを加速させる絶好の機会であり、県内外の知見が交わることで、新たな特別支援教育の姿が描かれていくことを期待しています。

令和8年度 県特支研 役員

※敬称略

会長	後藤 和広(鏡淵小)		
副会長	梅澤 健一(南本町小) 糀谷 正夫(裏館小) 岡田 義則(新潟市立東特別支援)		
理事	小林 朋広(新井中央小)	岩田 正行 (田尻小)	稲毛 真哉 (千手小)
	前田 友晴(今町小)	田中 博徳 (北辰小)	古井丸 裕三(万代長嶺小)
	土田 亮(女池小)	竹田 真実子(味方中)	小川 和宏 (新津第一小)
	角 直浩(外ヶ輪小)	伊藤 彰 (関川小)	中原 広司 (五泉小)
	石塚 間継(真野中)	堀井 利衛子(県立はまなす特別支援)	
	長谷川 徹(見附特別支援)	倉上 明 (県立西蒲高等特別支援)	
会計監査	小川 豊雄(糸魚川小)	佐藤 昌弘 (新町小)	樋口 憲哉 (水原小)

令和8年度 県特支研 評議員

※敬称略

上越	長谷川 和彦 (高田西小) 佐藤 則子 (板倉中)	柏崎・刈羽	中村 英雄 (桜通小) 枥倉 敦 (松浜中)
糸魚川	大瀬 孝志 (能生小)	妙高	三田村 尚子 (斐太北小)
長岡・三島	貝瀬 孝明 (栖吉小) 小林 和之 (大島中)	三条	藤田 吉成 (長沢小) 古川 真哉 (第一中)
燕・弥彦	坂内 克明 (燕西小)	加茂・南蒲	小田 貴樹 (葵中)
見附	矢嶋 義宏 (名木野小)	小千谷	野住 明美 (小千谷市立総合支援)
十日町・中魚	中沢 功 (川治小)	魚沼	大関 みどり (広神西小)
南魚沼	茶谷 明 (湯沢中)	新発田	磯部 裕之 (猿橋小)
北蒲	内山 谷寿夫 (蓮野小)	胎内	高橋 路子 (きのと小)
村上・岩船	近 貴志 (関川中)	五泉	渡邊 正人 (五泉北中)
阿賀野	脇川 恭子 (堀越小)	東蒲原	阿部 順延 (津川小)
佐渡	小田 俊裕 (加茂小)	新潟市北区	川又 由香 (岡方第一小)
新潟市東区	藤田 滋 (江南小)	新潟市中央区	本間 浩之 (鳥屋野小)
新潟市江南区	貝沼 浩晃 (早通小)	新潟市秋葉区	山形 昭 (小合小)
新潟市南区	石月 直敬 (小林小)	新潟市西区	佐久間 郁子 (山田小)
新潟市西蒲区	田中 由美恵 (升潟小)	新潟市中学校	前田 敏之 (岡方中)
新潟市中学校	北 竜征 (亀田西中)	視覚障害	久住 和彦 (新潟よつば学園)
聴覚障害	佐々木 裕一 (県立長岡聾)	病弱	関川 俊洋 (県立吉田特別支援)
肢体不自由	長谷川 修 (県立上越特別支援)	知的障害	大谷 誠 (新大附属特別支援)

県特支研のホームページをご覧ください。

- 県特支研の役員、事業、会報などの情報や特別支援学校へのリンクはこちらです。
- 地区大会や研究部研修会の情報はこちらから。
- 全特連関プロ大会等の様子を紹介します。全特連HPへリンクされています。その他、新潟県の特別支援教育に関する情報をお伝えします。

URL <http://www.niigata-inet.or.jp/kentokusiken/>
 E-mail tokusi@niigata-inet.or.jp

新潟県特別支援教育研究会

事業の概要
 理念
 経緯
 会の定め
 地区大会
 研究部
 会報
 要綱紹介
 会誌
 会誌編集
 会誌編集委員会
 特別支援学校センター新潟地区
 リンク先
 依頼会社
 役員ページ

お知らせ

- ・(24.04.24) 令和6年度第1回三協会資料をアップしました。
- ・(24.03.18) 費理金を財団に日本赤十字社新潟県支部へ
- ・(24.03.04) 会誌No.128を更新しました。
- ・(24.03.04) 会誌No.128を更新しました。
- ・(24.01.12) 佐渡地区の研修会よりを更新しました。
- ・(23.12.19) 両連紹介のページを更新しました。
- ・(23.12.19) 長岡市立新町小学校産科教諭の異動
- ・(23.12.19) 地区大会(下越)の情報を更新しました。
- ・(23.12.14) HPをリニューアルしました。

令和8年度 各研究部の活動

自閉症・情緒障害部 事務局:長岡市立千手小学校

7月30日(木)13:30~16:00に、菊池 鉄平 様(熊本大学大学院教育学研究科 教授)より、「多様な子どもたちの学びを支えるインクルーシブな学級づくり」と題してご講演をいただきます。

今まさに教育現場で最も熱く議論され、模索されている重要な課題のインクルーシブ教育について、「多様な子どもたちが誰一人取り残されず、安心して力を発揮できるクラスをどうデザインするか」について、具体的な実践例や理論について、お話をいただきます。

多くのご参加をお待ちしております。

知的障害部 事務局:新潟市立新津第一小学校

8月3日14:00~16:30に新潟市秋葉区文化会館において、室橋 真理子 様(新潟県作業療法士会 こどもサポート委員会理事)、有川 真弓 様(千葉県立保健医療大学健康科学部教授 日本作業療法士協会制度対策部)、本間 嗣崇 様(神奈川県立麻生支援学校 自立活動教諭 日本作業療法士協会制度対策部)を講師にお迎えし、「できた!を積み重ねる療育支援~作業療法士が伝える発達支援の実践」という演題でご講演いただく予定です。

作業療法士として、長年、児童・生徒の指導に携わってこられた講師先生から、具体的な指導方法をご示唆いただきます。多くのご参加をお待ちしております。

言語・難聴部 事務局:新潟市立万代長嶺小学校

7月31日に総会を実施後、田中 由美子 様(大阪芸術大学 初等芸術科教授)より「子どもの言語の問題とは:発達性言語症(DLD)の理解と支援」というテーマで Zoom を用いてご講演をいただく予定です。

DLDの子どもたちは、「伝えたいのにうまく伝わらない」「みんなが言っていることが分からない」という不安やもどかしさを抱えています。その子どもたちに対する理解と支援についてご示唆いただき、これからの指導、支援に生かしていこうと考えております。

肢体不自由・病弱・身体虚弱部 事務局:見附市立今町小学校

肢体不自由・病弱・身体虚弱部では、隔年で実践リーフレット「えがお」の発行と講演会を開催しており、今年度はリーフレットの発行となっています。

新潟県内の各地域の学校より、実践の紹介をしていただきます。

視覚障害部 事務局:新潟よつば学園

今年度も目や見え方に支援を要する児童生徒への配慮事項や支援の在り方について学んだり、情報共有をしたりする場として「目や見え方ネットワーク協議会」を5月と12月の2回開催予定です。例年、この会には県内の弱視特別支援学級担当者を中心に、目や見え方に配慮が必要なお子さんの担当者が参加します。また、7月28日の研修会では、佐藤 将朗 様(上越教育大学 発達支援・心理臨床教育学系 発達支援教育実践研究コース 特別支援教育領域 教授)よりご講演いただく予定です。視覚障害教育について興味をおもちの方は誰でも参加できますので、事務局にお問い合わせください。

県特支研だよりNo.133号をお届けいたします。ご多用の中、多くの皆様から玉稿を賜りました。感謝申し上げます。本号が特別支援教育の一助となることを願っております。(事務局)